

# 四日市版コミュニティスクール報書（令和4年度総括）

四日市市立中部中学校

校長 山内 日

## 1 コミュニティスクール（運営協議会）のねらい

### ～運営協議会テーマ「参画と評価」～

平成21年度から市のコミュニティスクール推進校として、「参画と評価」をキーワードに、活動方針を以下のように設定しています。

- ① 学校訪問などにより、学校教育活動への参画と評価により支援します。
- ② 地域の声を協議会へ、教育活動の様子を地域へと情報の橋渡しをします。
- ③ 学校自己評価（中部中の教育調査）の評価項目の検討をします。
- ④ 学校自己評価結果や学校づくりビジョンに対する学校関係者評価をします。
- ⑤ 学校関係者評価に示された提言について、学校の教育活動の推進を見守りサポートします。

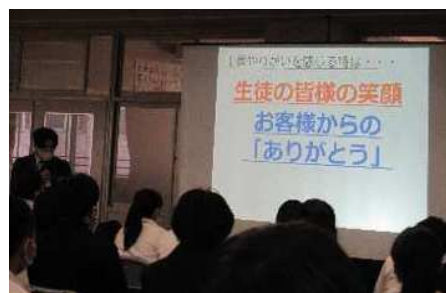
## 2 コミュニティスクール（運営協議会）の実践について

### (1) 教育活動の実践事例

#### ・キャリア教育① 講演会

本年度の職場体験学習は、予定していた時期に新型コロナウイルス感染拡大の兆しがあったため、昨年度同様、中止としました。それに替え、「中部電力」「太陽化学」「看護師」「JTB」の方をお招きし、講演会を実施しました。また、「住友電装」の方には講義と実演形式で体験もさせていただきました。「太陽化学」の方からは「化学」について中学生にもわかりやすく説明していただきました。四日市で生まれた会社が発明し、開発したものが世界中に発信されていることや、身近な製品にこの技術が使われていることへの驚きとともに、そのような仕事の分野があるということを知る機会となり、「化学」を勉強する動機付けにもなりました。

「JTB」の方には、旅行代理店の業務の内容を教えていただくとともに、「仕事をする上で大切なこと」「中学生の今しかできないこと」など、考え方や生き方についてもお話いただき、生徒は自分の生活と重ねて聴くことができました。このように、職場体験は実施できませんでしたが、講演会や実演を通して職業、働くことについて考える機会を持ち、学習を重ねることができました。



・キャリア教育② パネルディスカッション

コミュニティスクール運営協議会委員の3名の方をお招きし、生徒代表とのパネルディスカッションを2月2日に行いました。テーマは「働くことを考える」とし、生徒の事前アンケート結果を基に、パネラーの方々の体験や経験をお話しいただき、これからの進路選択に向けてヒントを頂きました。



・キャリア教育③地域スペシャリスト授業

1, 2年でそれぞれ別の日に行いました。地域で伝統文化の技術をもつ方をお招きし、茶道・着付け・ミニ畳・日永うちわ・陶芸・和菓子の製作等の体験をしました。初めて触る土や練り菓子、初めて操作する器具、縛り方、回し方など、生徒たちは自分で選択した文化に触れ、その難しさや奥の深さ、挑戦することの尊さを実感として体験することができました。特に2年生は、昨年、コロナ禍で見送りましたが、今年度は、講師の皆さまのご協力で実施することができ、生徒は大変喜んでいました。

(2) コミュニティスクール（運営協議会）の取組による効果

毎年度、運営協議会を5回実施しています。そのうち3回は6部会（学校運営、道徳・人権、教科授業づくり、生徒指導、特別支援教育、国際理解教育）の担当教員が参加し、各部会の取組の説明を行い、ご意見をいただいています。また、他の2回は学校行事と併催するなど、教育活動の参観を伴った意見交換会として実施しています。授業や行事の参観後に委員の皆さんの視点から感想や評価を、時にはアイデアをいただいています。



今年度は、会議も含め、行事等の参観も開催し、進めることができました。行事やオープンデーでの生徒たちの様子だけでなく、PTA主催の講演会や道徳の校内公開授業等にも参加していただきました。その都度、教育課題について共に考えていただいたり、直に感じられたことなどのご意見やアドバイスをいただいています。

第5回の運営協議会では、一年を振り返り、生徒・保護者による学校アンケートの結果と各担当から成果と課題を示しました。アンケートから、学校で生徒が学んでいることが家庭で話されていなかったり、アンケートの設問が、保護者にとってもう少し分かりやすくなるよう、普段から情報発信を丁寧にするとう効果が出るのではというご意見をいただきました。それらとともに、委員の方からは、学校の取り組みと生徒の姿を通した評価をいただきました。また、次年度の学校づくりビジョンの承認をいただくとともに、校区の保護者や生徒の生の声を交えた次年度の取り組みへのご意見等をいただき、「チーム CHUBU」としてのエールをいただきました。

### 3 今後に向けて

本年度も、コロナ禍にある生徒たちの心身への影響を心配いただきました。伸び伸びと発育発達していくべきこの時期に様々な制限がかかることで負荷がかかり、現象として表れていないか。また、その解消に向け、運営協議会として協力できることはないかと常に考えていただいています。

そのような視点で、今年度も数多くの教育活動に参画していただき、ご意見をいただきました。毎年、2年生で計画している「パネルディスカッション」では、委員の方が同じフロアで生徒たちと対話する豊かな時間となっています。委員の方の豊富なキャリアに触れ、意見交換ができ、自分の生き方を見つめ、将来について考える貴重な機会となっています。何より、パネリストの方が、学校の中でお会いする「よく知っている方」ということや、「私の地域」の方ということが生徒たちにとっても親近感が持て、「チーム CHUBU」の意味や、様々な人に支えていただいている実感がもてる取り組みになっています。生徒も委員さんも楽しみにしている機会であり、今後も継続していきたいと思えます。

また、他の行事や授業参観の際には、生徒の主体的な活動や、学びに向かう姿が多くの場面で見て取れたこと、教師が生徒と積極的に向き合う姿勢を評価していただき、学校づくりビジョンの実現に向けて着実に前進していることを確認することができました。

今後は、外国人生徒指導や特別支援教育、不登校問題、教職員の過重労働など、他にも多岐にわたりご意見をいただいたことを活かして、さらに取り組みを深化させていきたいと思えます。

